いきいきまえばし人

県地球温暖化防止活動推進センター長
中島 啓治さん・73歳
天川町

長い目で見て、継続的に

珪藻（けいそう）や地学の研究に携わりつつ放送大の講師や県地球温暖化防止活動推進センター長を務め、幅広く活動している。

「生物や環境に興味があり、それを仕事にしてきました。教育者として人に伝えることが得意だったので、このセンターの存在を知った時には良い機会だと思いました」

県内の多くの人に思いを伝えられるセンターの活動に充実感を覚えている。

「今が良ければではなく、素晴らしい環境を後世に残そうという思いを広げていきたいですね」

自分の身の回りからエコ活動をしていきたいという考えで、40分以上かけて徒歩で通勤する。

「今まで世間のエコ活動は節電に偏りがちでした。これからはクールチョイスを推進し、自家用車から他の通勤手段への転換を勧めていきます」

センターでは、毎月10日午後7時から、エコな通勤手段について勉強会を行っている。

「利用しやすいバスのダイヤを求める声があります。こういった声をまとめて、行政に提案していくこともセンターの役割だと考えています」

温暖化問題は一朝一夕に解決する問題ではない。だからこそ、中島さんのような取り組みの積み重ねが欠かせない。

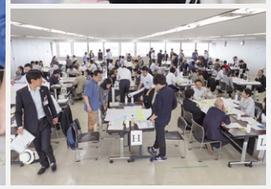
クローズアップ CLOSE UP

多彩なバラが出迎え

敷島公園ばら園で、春のばら園まつりを6月4日㈰まで開催中。さまざまな種類のバラが園内を彩っています。また、5月20日と21日には敷島公園花仲間によるオープンガーデンフェスティバルも開催。きれいに手入れされた庭に鑑賞者は感心していました。

市の将来像を白熱議論

5月14日、策定中の総合計画に市民の意見を反映しようと、市役所でワークショップを行いました。参加者は社会人や学生など、幅広い年代の市民103人。10年後に目指すべき方向を議論し、「帰ってきたくなる街」や「防災都市」といったアイデアが出ました。



愛され続ける朔太郎

5月14日に前橋テルサで「朔太郎忌　どこがヤバイの？朔太郎」を行いました。第1部では、出演者の3人が異なる立場から見た朔太郎について意見を交換。第2部のリーディングシアターでは、多くの来場者が感情のこもった朗読の世界に魅了されていました。

赤城の恵ブランド

ブルーベリー

vol.46

問はなぶさ有機農園
☎027-288-8888

愛情を込めた分、さらにおいしくなればいいなと思いながら育てています。

はなぶさ有機農園で栽培している赤城の恵ブランド認証品の「ブルーベリー」。有機栽培で育てているため、身体に優しい商品です。

「ブルーベリーを育てるには、剪定（せんてい）をしたり草刈りをしたり、手間のかかる作業があって大変。ですが、良い物ができるよう頑張っています」と従業員の黒澤さん。消費者の皆さんに喜んでもらえるよう、心を込めて育てています。

このブルーベリーは、自社直売所やフレッセイクラシード若宮などで販売。ブルーベリー狩りも体験できます。

また、同農園ではさまざまな種類のブルーベリーを栽培。ブルーベリージュースやジャム、アイスなども、同じく赤城の恵ブランドの認証品です。はなぶさ有機農園のブルーベリーをさまざまな商品で楽しんでみませんか。